

でんでんむしの かなしみ

新美 にいみ
南吉 なんきち

いっぴきの でんでんむしが ありました。

ある ひ その でんでんむしは たいへんな
こ
とに きが つきました。

「わたしは いままで うっかりして いたけれど、
わたしの せなかの からの なかには かなしみが
いっぱい つまって いるでは ないか」

この かなしみは どう したら よいでしょう。
でんでんむしは おともだちの でんでんむしの
ところに やって いきました。

「わたしは もう いきて いられません」

と その でんでんむしは おともだちに いいま
した。

「なんですか」

と おともだちの でんでんむしは ききました。

「わたしは、なんと いう ふしあわせな ものでし
よう。わたしの せなかの からの なかには かな
しみが いっぱい つまって いるのです」

とはじめの でんでんむしが はなしました。

すると おともだちの でんでんむしは いいま
した。

「あなたばかりでは ありません。わたしの せなか
にも かなしみは いっぱいいます。」

それじゃ しかたないと おもって、はじめの
でんでんむしは、べつの おともだちの ところへ
いきました。

すると、その おともだちも いいました。

「あなたばかりじゃ ありません。わたしの せなかにも かなしみは いっぱいです」

そこで、はじめの でんでんむしは また べつのおともだちの ところへ いきました。

こうして、おともだちを じゅんじゅんに たずねて いきましたが、どの ともだちも おなじ ことを いうので ありました。

とうとう はじめの でんでんむしは きが つきました。

「かなしみは だれでも もって いるのだ。わたしばかりでは ないのだ。わたしは わたしの

かなしみを こらえて いかなきゃ ならない」

そして、この でんでんむしは もう、なげくのをやめたので あります。

「でんでんむしのかなしみ」

※新装版 新美南吉童話集1『ごん狐』
(2012年 大日本図書株式会社)の「でんでんむしのかなしみ」をもとに編集しました。

※このテキストを個人的に読む以外の利用をされる場合には、新美南吉記念館までご連絡ください。
(TEL : 0569-26-4888)